

実践のまとめ（第1学年 社会科）

妙高市立新井中学校 教諭 渡邊 海人

1 研究テーマ

社会的な見方・考え方を働かせて考えることを楽しむ生徒の育成 ～興味・関心を引き出す課題設定を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では社会科の目標を「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。」としている。また主体的・対話的で深い学びを実現するために、課題解決型の学習を取り入れた授業が大切であるとしながらも、グループで活動することだけが優先され、内容が深まらないといった課題が指摘されている。

私自身のこれまでの授業実践でも課題解決型や探究型の授業を行ってきたが、生徒の活動の様子から主体性に乏しいことが多くあった。そこで、より生徒の興味・関心を引き出す課題設定が必要だと考えた。またここ数年は、生徒がニュースや社会科に関連したテレビ番組などを見る機会が減少し、動画配信サイトの中でも短時間で見方や受け取り方を明確にした動画を視聴する時間が増加し、社会的事象について、見方・考え方を働かせながらじっくりと考える機会が減少しているように感じている。これからの変化が激しく予測が難しい社会を生きる生徒たちには、様々な課題に向き合い、楽しみながら自分の人生を切り拓いていく力を身に付けてほしいと考え、研究テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

- ① 学習内容と密接に関連した単元を貫く課題を設定する。

生徒が興味・関心をもって活動に取り組めるような単元を貫く課題を設定し、知識・技能の獲得が主となる時間においても、課題解決に向けた材料を集める時間とするように単元構成を行う。

- ② 生徒が獲得した見方・考え方を記録できるように、「振り返りシート」を活用する。

1時間ごとに学びの記録を残す「振り返りシート」への記述を行う。その項目として学習内容だけでなく、その時間の学習で得た見方・考え方を記録することとし、生徒が単元を貫く課題を考えるための材料を蓄積できるようにする。

- ③ 自分の考えや見方・考え方を深めるため、グループでの意見交換に加え、自己対話の時間を設定する。

グループ活動は意見交換によって生徒それぞれの考えや見方・考え方に変化や深化をもたらすことが必要である。しかし、グループでの意見交換という手段が優先され、他者の意見を自己の考えの変容につなげられていないことも多い。グループでの意見交換の後に自己対話を行う時間を着実に設定し、考えや見方・考え方の変化や深化を確認できるようにする。

(3) 研究テーマに関わる評価

研究テーマに迫る手立てが有効か検証するために、下記の2点で検証を行う。

- ・アンケートによる数値での検証
- ・振り返りシートの記述による検証

アンケートでは、「社会科の授業で提示される課題に対して、どのように考えればよいかわかった」「社会科の授業を通して考えることを楽しいと感じた」の2点について、肯定的に回答する生徒が増えたかを検証する。振り返りシートの記述では、社会的な見方・考え方の活用の在り方や生徒の考えの変化や深化を見取る。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

世界の諸地域「アジア州」（中学社会「地理」地域にまなぶ 教育出版）

(2) 単元の目標

- ・アジア州に暮らす人々の生活を基に、アジア州の地域的特色を大観し理解する。
- ・アジア州の各地域における経済発展の特徴やその功罪について、歴史的背景や地理的な条件などを地図や統計資料を読み取る活動を通して、理解する。
- ・アジア州の各地域における経済発展の特徴を多面的・多角的に考え表現する。
- ・今後の世界や我が国が目指すべき「豊かさ」について多面的・多角的に考え、根拠を明確にして表現する。
- ・アジア州における経済発展を基に、今後の世界や我が国が目指すべき「豊かさ」について主体的に考えようとする態度を養うとともに、他者との意見交換や自己対話を通して自己の学習や考え方を調整しようとする力を養う。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州に暮らす人々の生活を基に、アジア州の地域的特色を大観し理解している。 ・アジア州の各地域における経済発展の特徴やその功罪について、歴史的背景や地理的な条件などを地図や統計資料を読み取る活動を通して、理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の各地域における経済発展の特徴を多面的・多角的に考え表現している。 ・今後の世界や我が国が目指すべき「豊かさ」について多面的・多角的に考え、根拠を明確にして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州における経済発展を基に、今後の世界や我が国が目指すべき「豊かさ」について主体的に考えようとしている。 ・他者との意見交換や自己対話を通して自己の学習や考え方を調整しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全9時間、本時9／9時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	・アジア州の自然環境や主な国を大観する。	◎アジア州にはどんな国があるのだろう。	態度 アジア州について主体的に学習しようとしている。 【行動観察】

<p>2 (6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国の経済発展について学習する。 ・ 中国の経済発展につながる歴史的な背景や地理的な条件について学習する。 ・ 中国の経済発展について学習する。 ・ 東南アジアの経済発展について学習する。 ・ 南アジアの経済発展について学習する。 ・ 西アジア、中央アジアの経済発展について学習する。 	<p>◎なぜ韓国は日本の若者にとって魅力的なのか。</p> <p>◎中国とはどんな国なのだろうか。</p> <p>◎「爆買い」はどのようにして生まれたのか。</p> <p>◎なぜタイは世界一幸せな国なのだろうか。</p> <p>◎なぜインドは経済が急成長しているのか。</p> <p>◎なぜ世界一高いビルは西アジアにあるのか。</p>	<p>知・技</p> <p>各地域における経済発展の特徴やその功罪について、歴史的背景や地理的な条件などを地図や統計資料を読み取る活動を通して、整理しまとめている。</p> <p style="text-align: right;">【ワークシート】</p> <p>思・判・表</p> <p>各地域の経済発展の特徴とそれぞれの地域の「豊かさ」について自分の言葉でまとめている。</p> <p style="text-align: right;">【振り返りシート】</p> <p>態度</p> <p>学習内容を基に自分なりの「豊かさ」について考えを変化、深化しようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【振り返りシート】</p>
<p>3 (2) 本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習した内容を基に自分なりの「豊かさ」について考える。 	<p>◎「豊かな」国とはどのような国だろうか。</p>	<p>思・判・表</p> <p>各地域の経済発展の特徴やその功罪についての学習を基に、自分なりの「豊かさ」について、考え、表現している。</p> <p style="text-align: right;">【ワークシート】 【行動観察】</p> <p>態度</p> <p>他者との意見交換や自己対話を通して「豊かさ」について主体的に考えようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【振り返りシート】</p>

4 単元と生徒

(1) 単元について

本単元の前には「世界の人々の生活と環境」という単元を学習し、気候など地理的な条件が人々の生活にどのように影響するかを学んだ。これを踏まえた上で本単元の「世界の諸地域」ではさらに踏み込んで、産業などの地域の特徴について学び、環境問題などの地球規模の問題について考えるという単元構成になっている。

アジア州は、我が国が属する地域であり、生徒にとって他の州に比べて比較的興味・関心が高く、既有知識が豊富な地域と考えられる。生徒の興味・関心や既有知識を活用した上で、新たな視点を与えるような学習活動を行うことが大切になると考える。

(2) 生徒の実態

前向きな態度で授業に取り組み、グループでの話し合い活動など対話的な活動に積極的に取り組むことができる生徒が多い。また、発問への反応もよく、互いの意見を肯定的に受け止めることができる雰囲気がある。大半の生徒がワークシートや振り返りシートへの記述を丁寧に行うことができる。一方で、知識・技能の定着が十分でない生徒が多い。また資料の読み取りや思考を要する課題に対して、根拠を基に考えたり、表現したりすることが難しい生徒も多い。そのため「なぜそう考えたのか。」「どうしてそう言えるのか。」という問い返しを行うことを意識して授業を進めてきた。

本単元では、生徒が根拠を基に考える面白さや他者との意見交換や自己対話を通して考えが深まっていく楽しさを味わい、その後の学習でも主体的に社会的な見方・考え方を働かせて考えようとする態度を育成したい。

5 本時の展開（令和7年10月28日実施）

(1) ねらい

- ・各地域の経済発展の特徴やその功罪についての学習を基に、自分なりの「豊かさ」について、考え、表現することができる。（思考・判断・表現）
- ・意見交換や自己対話を通して「豊かさ」について主体的に考えることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

(2) 展開の構想

- ①これまで学習してきた各地域の経済発展の特徴やその功罪を「豊かさ」という観点から捉えなおすことで、多面的・多角的な見方・考え方ができるようにする。
- ②振り返りシートに蓄積してきた考えや見方・考え方を活用して「豊かさ」について考えるように促す。
- ③学習のまとめとして自己対話を行い、生徒に自身の見方・考え方の変化や深化について考察するようはたらきかける。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 10	○各地域の経済発展の特徴について振り返る。	◎各地域の経済発展の特徴と功罪について強調し、「豊かさ」を考えるための材料となるようにする。	◇前時までのワークシートを活用し、テンポよく、振り返りを行う。
「豊かな」国とはどのような国だろうか。			
展開 30	○「豊かな」国とはどのような国かを考える。	◎個人での思考を促す。 ワークシートや振り返りシートへの記述を参考にすることに助言する。 ・給料が高い国。 ・貧富の差が小さい国。 ・最新の機械が使える国。	○活用できる資料や視点をまとめたものをロイロノートで配布する。 思・判・表 各地域の経済発展の特徴やその功罪についての学習を基に、自分なりの「豊かさ」につ

	<p>○学習班でそれぞれが考えた「豊かな」国について意見交流を行う。</p> <p>○学級全体で自由に意見交流を行う。</p>	<p>◎なぜそう考えたのか根拠を示して説明するように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国自体にお金がたくさんあってもお金持ちが独占していたら豊かとは言えないから。 <p>◎自分と異なる意見の生徒と意見交流を行うように促す。</p>	<p>いて、考え、表現している。</p>
<p>まとめ 10</p>	<p>○意見交流を経て、再度個人で「豊かな」国について考える。</p>	<p>◎意見交流で得た新たな見方や考え方、さらに自分が大事だと考えたことなどを記述するように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aさんの考えを聞いて、自分の中になかった考え方があったことを知りました。 ・Bさんの考えはわかるけど、やっぱり自分の考えがしっくりくると感じました。 	<p>態度 意見交換や自己対話を通して「豊かさ」について主体的に考えようとしている。</p>

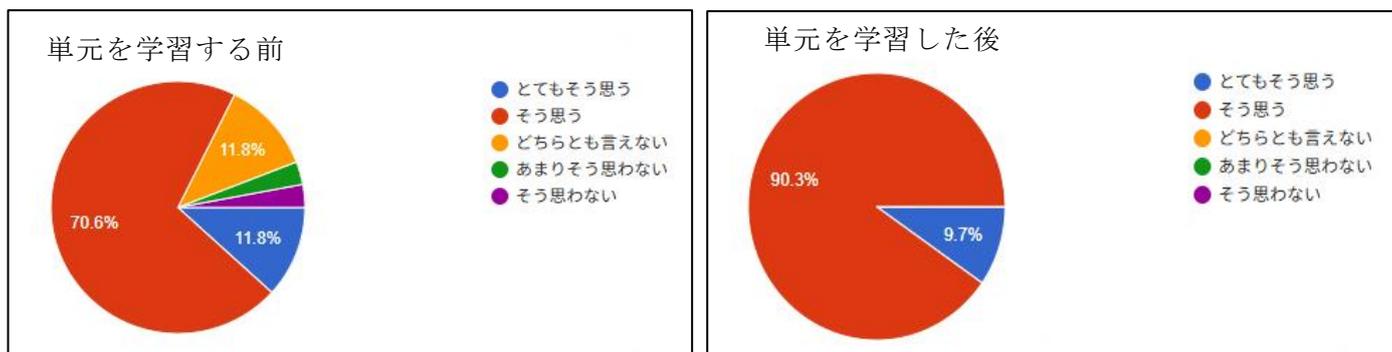
(4) 評価

- ・各地域の経済発展の特徴やその功罪についての学習を基に、自分なりの「豊かさ」について、考え、表現している。 【思判表 ワークシート、行動観察】
- ・意見交換や自己対話を通して「豊かさ」について主体的に考えようとしている。 【態度 振り返りシート】

(2) 研究テーマに関わる評価

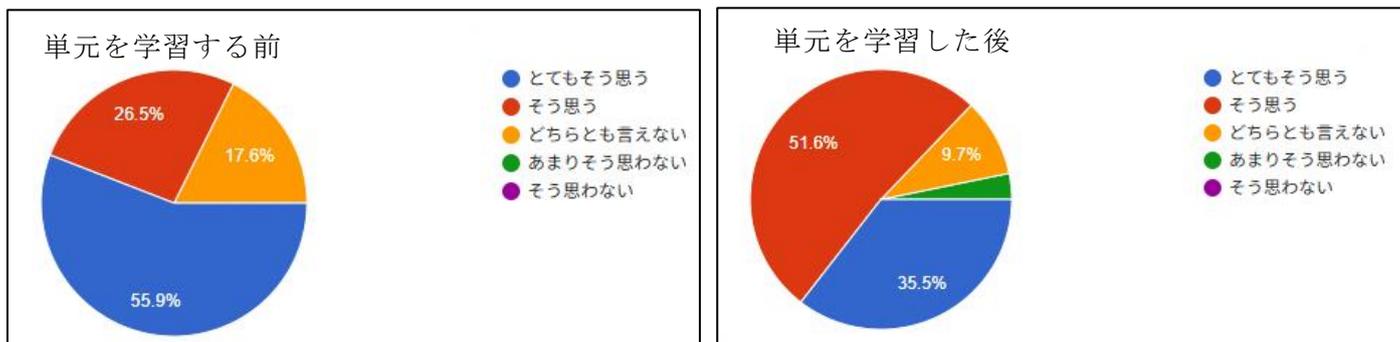
本実践では、単元前後のアンケートによる数値の評価、児童の振り返りの記述から評価を行った。

① 社会科の授業で提示される課題に対して、どのように考えればよいかわかったか。



単元を実施する前後で肯定的な評価が82.4%から100%へと変化した。単元を貫く問いを設定し、それに対応した「振り返りシート」活用したことで、どのように見方や考え方を働かせればよいかを理解できた生徒がいたことがわかる。

② 社会科の授業を通して考えることを楽しいと感じたか。



単元を実施する前後で肯定的な評価が82.4%から87.1%へと変化した。授業の中で社会的な見方・考え方の働かせ方に理解が進んだ結果、活動を「楽しい」と感じることができるようになった生徒が僅かではあるが増加したと考えることができる。

③ 生徒の振り返りから

- ・振り返りシートに「豊かな国ポイント」を書くことで、各地域の経済発展の似ているところと違っているところがわかった。
- ・最初に「豊かな国とは？」と言われたときはお金のことしか考えられなかったけど、授業や他の人の意見を聞いて、自然などお金以外にも大事なことがあることに気が付いた。
- ・色々な国の「豊かさ」について考えたことで、その国の得意なものがあってそれが大事だということがわかった。
- ・みんなの豊かだと思国について聞いて、人それぞれ大事に思うことが違うことがわかった。

単元を貫く問いの設定とそれに対応した「振り返りシート」の活用によって、生徒は各時間で蓄積した学びを踏まえ、他の地域との比較を自然と行っていた様子が伺える。また、仲間との意見交流を通して他者の視点について考えることができていたようだ。一方で、「〇〇がわかった。」と学習内容を列挙するに留まってしまいう生徒も少なくなかった。一単元の単発的な取組ではなく、継続して取り組んでいく必要があると考える。

(3) 今後の課題

① 単元や本時の目標をより明確にした課題設定

今回の実践では、本来、地理的な見方・考え方を育むことが目標であったが、私の課題設定が不十分で、公民的な見方・考え方や総合的な学習の時間や特別の教科道德の時間に育まれるような見方・考え方を活用して課題に向き合っていた生徒が複数見られた。提示された課題の最終的な答えは生徒一人ひとりで異なるにしても、そこに向かう過程を教師が明確にし、その単元で身に付けさせたい見方・考え方を獲得できるよう指導、支援していくことが重要である。そのために学習内容に焦点を当てがちだった教材研究において、単元や本時の目標により焦点を当てるように意識していく。

② 生徒一人ひとりが思考できる授業形態の選択

これまでの自分の授業では、生徒指導的な観点などから5～6人グループでの活動を中心に活動を行ってきた。本時でも各自の考えをまとめる段階でこのような活動を行ったが、グループ内が2つに分かれている様子が見られた。他者との交流とそれを基にした自己対話を用いて社会的な見方・考え方を深めていくためには3人くらいのグループで活動することが適切であったと考える。日々の授業の中でも取り入れていきたい。

<参考文献>

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会偏』（東洋館出版社）